

平成14年度

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

浜の堂遺跡
高城B遺跡
七尾瓦窯跡
垂水遺跡
都呂須遺跡

2003年3月

吹田市教育委員会

序

吹田市におきましては昭和49年度国庫補助事業の埋蔵文化財発掘調査以来、年々増加する開発行為に伴い、数多くの発掘調査を実施して参りました。これらの調査からは、先人の残した多くの遺構・遺物を調査成果として得ることができ、これらは吹田市の歴史を知る上で貴重な資料となっています。

平成14年度におきましては国庫補助事業として5件（平成14年12月末現在）の発掘調査を実施しました。多くは専用住宅の建築等を契機として実施したもので、今後、吹田市では住宅の建替等の工事が増加するものと予想されます。

本市教育委員会におきましては、より良き文化財保護の施策ができますよう努力していく所存ではありますが、これはやはり市民の方々のご理解を得ずには困難なものといえ、市民のみなさまにおかれましては発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対し、今後とも深いご理解とご協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

平成15(2003)年3月

吹田市教育委員会

教育長 植原正道

例　　言

1. 本書は平成14年度国庫補助事業として実施した、七尾瓦窯跡、垂水遺跡、高城B遺跡、都呂須遺跡（12月末現在）の緊急発掘調査をまとめたものである。また、平成13年度に国庫補助事業として実施した浜の堂遺跡、高城B遺跡についても併せて報告する。
2. 発掘調査地点は次のとおりである。
(平成13年度)
浜の堂遺跡 吹田市元町1129-20
高城B遺跡 吹田市南高浜町920-1
(平成14年度)
高城B遺跡 吹田市南高浜町77-2・3
七尾瓦窯跡 吹田市岸部北5-11・35
垂水遺跡 吹田市垂水町1-747-5
都呂須遺跡 吹田市内本町2-794-3
3. 発掘調査の整理作業は吹田市岸部北4丁目10番1号、吹田市立博物館で実施し、資料の保管も同所において行っている。
4. 本文の執筆は、第1・2・3(1)・4・5章を西本安秀が、第3(2)・6章を賀納章雄が行った。
5. 図中の方位は磁北を示し、標高はT.P.（東京湾標準潮位）を示す。
6. 発掘調査において、藤村秀和、藤村節子、大西啓太郎、川端隆司、大昌建設 石黒斗光、出原真哉、出原貴子、山田英司氏、調査員花崎晶子をはじめ、多くの方々の協力を得ました。記して謝意を表します。

発掘調査参加者名簿

調査主体 吹田市教育委員会

調査指導 大阪府教育委員会文化財保護課

調査担当 吹田市教育委員会吹田市立博物館文化財保護係 西本安秀・田中充徳

賀納章雄・堀口健二

調査補助員 木船安紀子、秋山芳恵

目 次

第1章	平成14年度埋蔵文化財発掘調査の契機	1
第2章	浜の堂遺跡の発掘調査	3
第3章	高城B遺跡の発掘調査	4
第4章	七尾瓦窯跡の発掘調査	10
第5章	垂水遺跡の発掘調査	14
第6章	都呂須遺跡の発掘調査	15

挿 図 目 次

第1図	発掘調査地点位置図	2
第2図	浜の堂遺跡発掘調査地周辺図	3
第3図	調査区平面図	3
第4図	遺構平面・土層断面図	3
第5図	高城B遺跡発掘調査地周辺図	4
第6図	調査区平面図（第1期）	4
第7図	土層断面図	5
第8図	遺構平面図	6
第9図	出土遺物実測図	7
第10図	調査区平面図（第2期）	8
第11図	土層断面図	9
第12図	遺構平面図	9
第13図	七尾瓦窯跡発掘調査地周辺図	10
第14図	調査区平面図	11
第15図	第1期調査区土層断面図	12
第16図	第2期調査区土層断面図	13
第17図	垂水遺跡発掘調査地周辺図	14
第18図	調査区平面図	14
第19図	土層断面図	14
第20図	都呂須遺跡発掘調査地周辺図	15
第21図	調査区平面図	15
第22図	土層断面図	16
第23図	遺構平面図	16

表 目 次

第1表	検出遺構一覧表	7
-----	---------	---

図版目次

- 図版1 浜の堂遺跡
- 図版2 高城B遺跡（第1期）1
- 図版3 高城B遺跡（第1期）2
- 図版4 高城B遺跡（第1期）3
- 図版5 高城B遺跡（第1期）4
- 図版6 高城B遺跡（第1期）5
- 図版7 高城B遺跡（第2期）1
- 図版8 高城B遺跡（第2期）2
- 図版9 七尾瓦窯跡（第1期）1
- 図版10 七尾瓦窯跡（第1期）2
- 図版11 七尾瓦窯跡（第2期）1
- 図版12 七尾瓦窯跡（第2期）2
- 図版13 垂水遺跡
- 図版14 都呂須遺跡

報告書抄録

ふりがな	へいせいい14ねんどまいぞうぶんかさいきんきゅうはっくつちょうさがいほう
書名	平成14年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	浜の堂遺跡 高城B遺跡 七尾瓦窯跡 垂水遺跡 都呂須遺跡
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	西本安秀 賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-0041 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦 2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 調査番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査 面積	調査 原因
ほい どう わい せき 浜の堂遺跡	吹田市元町1129-20	27205 120	34° 45' 37"	135° 31' 19"	20020218	7.5m ²	建物の 建築
たか しろ ごー わい せき 高城B遺跡	吹田市南高浜町920-1	27205 117	34° 45' 37"	135° 31' 40"	20020315～ 20020319	30m ²	建物の 建築
たか しろ ごー わい せき 高城B遺跡	吹田市南高浜町77-2・3	27205 117	34° 45' 35"	135° 31' 48"	20020829、 20020911～ 20020913	38m ²	建物の 建築
たの おと ごー せき 七尾瓦窯跡	吹田市岸部北5-11-35	27205 32	34° 47' 7"	135° 32' 3"	20020513～ 20020514	27.5 m ²	範囲の 確認
たの おと ごー せき 七尾瓦窯跡	吹田市岸部北5-11-35	27205 32	34° 47' 7"	135° 32' 3"	20021111	34m ²	範囲の 確認
たる み い せき 垂水遺跡	吹田市垂水町1-747-5	27205 86	34° 45' 55"	135° 30' 14"	20020718	6.6m ²	建物の 建築
とろす い せき 都呂須遺跡	吹田市内本町2-794-3	27205 91	34° 45' 28"	135° 31' 30"	20020903	3m ²	建物の 建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浜の堂遺跡	集落遺跡	中世	土坑、ピット	土師器	なし
高城B遺跡	集落遺跡	平安～中世	溝、土坑、ピット	土師器、瓦器、須恵器、青磁、灰釉陶器 (平安)	灰釉陶器 (平安)
高城B遺跡	集落遺跡	平安～中世	ピット、溝	土師器、須恵器、瓦器	溝(中世)
七尾瓦窯跡	生産遺跡	奈良時代	なし	なし	なし
七尾瓦窯跡	生産遺跡	奈良時代	なし	なし	なし
垂水遺跡	集落遺跡	弥生～中世	なし	なし	なし
都呂須遺跡	集落遺跡	弥生～中世	ピット、土坑、溝	土師器、瓦器	土坑(中世)

第1章 平成14年度発掘調査の契機

平成14年度は、高城B遺跡、七尾瓦窯跡、垂水遺跡、都呂須遺跡の4遺跡5件（12月末現在）の発掘調査を住宅建築工事ほかに伴い実施した。

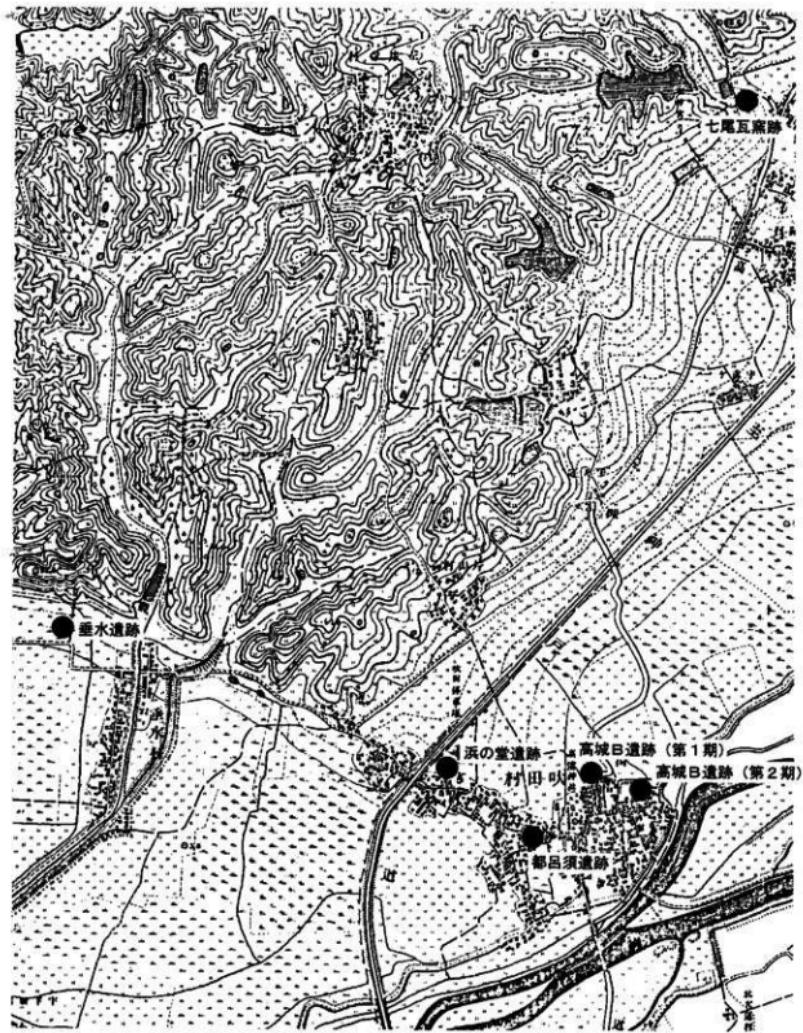
高城B遺跡は繩文～古墳・平安時代、中世～近世の複合遺跡で、吹田市高浜町、高城町、南高浜町、朝日町に所在し、南北約210m、東西約270mの不整三角形の範囲が推定範囲である。平成7年度に本格的な発掘調査が実施された結果、調文時代のラスコ状の土坑、古墳時代の井戸跡、平安時代の建物群とそれを囲む大溝、平安時代～中世の土坑群などの遺構と、繩文時代の石器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、瓦など多様な遺物が検出された。また、平成12年に遺跡北端で行われた調査では、古墳時代中期から後期の落ち込み、井戸と考えられる土坑等の遺構と須恵器、土師器等の遺物が出土した。出土須恵器の中に焼けひずんだ失敗品の破片が多く見られ、吹田須恵器窯跡群に関連した遺構・遺物とも考えられることから、古墳時代の須恵器生産のあり方を考える上で重要な資料となった。今回の調査地点は高城B遺跡の東南端で平成14年8月29日に住宅建築に伴い確認調査を実施した結果、遺構・遺物が確認され、遺跡範囲が南東に拡大することが判明し、建築工事に抵触する部分を対象に平成14年9月11～13日に本調査を実施した。

七尾瓦窯跡は吹田市岸部北5丁目に所在し、聖武朝難波宮造宮瓦窯跡である。昭和54年に発掘調査が実施された結果、7基の窯跡が確認された。その後、周辺の調査で瓦窯操業期の溝、ピット、建物跡などの工房関連遺構が検出されている。今回の調査地は史跡指定範囲の南隣で2地点あり、それぞれ平成14年5月13・14日、11月11日に包蔵状況の確認調査を実施した。

垂水遺跡は旧石器～中世の複合遺跡である。昭和48～51年に本格的な発掘調査が行われた結果、弥生時代の高地性集落であることが判明したが、昭和62年に丘陵南裾部で行われた調査では弥生時代の遺構・遺物等が確認され、集落跡は裾部の平坦地にも及ぶことが判明した。昭和55～56年に垂水神社東側の丘陵裾部で行われた調査では、垂水神社との関連が想定される宝塔文の軒丸瓦など平安時代末の遺物が出土した。平成10年の調査では、熔解途上の痕跡のある古墳時代の鏡の破片が出土し、古墳時代には通常の集落遺跡だけに止まらないことが判明した。今回の調査地は遺跡の南端に位置し、平成14年7月18日に包蔵状況の確認調査を実施した。

都呂須遺跡は弥生時代～近世の複合遺跡である。その中心となるのが中・近世の集落跡で、これまで、溝、土坑、ピット等の遺構と土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、磁器、瓦等の遺物が検出されている。遺跡の立地として特徴的なのは、砂地をベースとしていることで、これは繩文時代前期のいわゆる繩文海進の際に沿岸流で運ばれ堆積した砂層と考えられている。今回の調査地は遺跡の南東端に位置し、平成14年9月3日に包蔵状況の確認調査を実施した。

なお、本概報においては、平成13年度に実施した発掘調査のうち、平成14年2月18日に調査を実施した浜の堂遺跡（元町1129-20）、平成14年3月15～19日に調査を実施した高城B遺跡（高浜町920-1の一部）の調査報告も併せて掲載する。



第1図 発掘調査地点位置図 (1 : 20,000 明治18年測量地図)

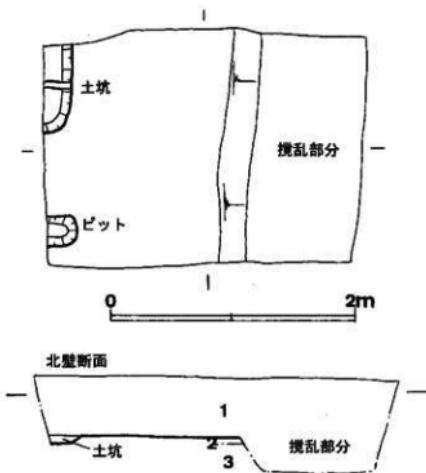
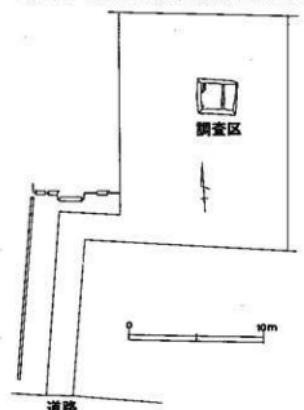
第2章 浜の堂遺跡の発掘調査

(1) 調査の経過

中世の遺跡である浜の堂遺跡では遺構・遺物が検出される可能性があることから事前に確認調査を行った。調査については平成14年2月18日に調査区1か所（調査面積7.5m²）を設定し、実施した。

(2) 調査の成果

調査の土層序は基本的にⅠ層 盛土・旧表土（現代）、Ⅱ層 灰白色粘質土（硬質、砂を含む。）、Ⅲ層 灰白色砂質土である。これらの層のうち、遺構については表土下約50cmのⅡ層で土坑とピットを検出した。土坑は調査区北西隅で確認され、長さ約70cm、幅約20cm、深さ約6cmを測り、遺構内の堆積土は灰色砂質土である。土坑から土師器細片が出土した。ピットは南西隅付近で確認でき、径約20cm、深さ約3cmを測り、遺構内の堆積土は灰色砂質土である。出土遺物については遺構内検出遺物の他にⅡ層の上面で土師器の細片（中世か）の出土があった。Ⅱ層の検出遺構は集落跡の一部とみられ、その時期は出土遺物よりみて中世と考えられる。



1. 盛土・旧表土（現代） 2. 灰白色粘質土（硬質）
3. 灰白色砂質土

第4図 遺構平面・土層断面図

第3章 高城B遺跡の発掘調査

1. 吹田市高浜町920-1の一部における発掘調査（第1期）

(1) 調査の経過

調査地点は、古墳時代、平安時代～中世の遺跡である高城B遺跡に当たる。平成14年3月15日に確認調査を実施した結果、地表下約1mで中世の遺構（ピット）等の埋蔵文化財が確認された（調査面積8m²）。ただちに保存措置について協議を行った結果、調査の拡大を行うことで協議が整い、引き続き3月18・19日に本調査として調査を実施した。調査面積は約30m²である。

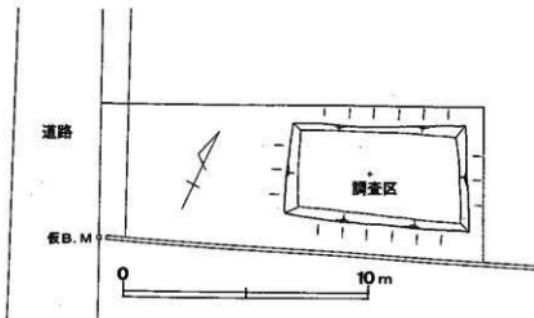


第5図 高城B遺跡発掘調査地周辺図 (1:5,000)

(2) 調査の成果

調査区の土層序は、基本的にI層 盛土（現代）、II層 黒灰色粘土（耕土）、III層 淡黒灰色粘砂質土、IV層 黄白色粘土（硬質、地山）である。

これらの層のうち、地表下約1mのIV層遺構面で、溝、土坑、ピット等の遺構が検出された。

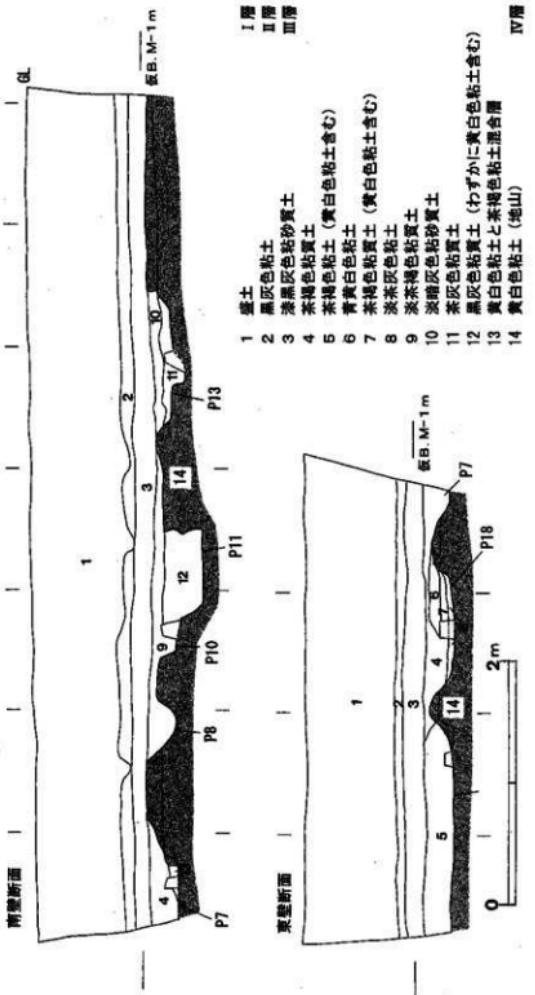


第6図 調査区平面図

溝は2条検出された。溝1は調査区北端で検出された東西方向に走行するもので、検出幅約1.2m、深さ約0.2mを測り、堆積土は茶褐色粘質土である。堆積層に砂が含まれておらず、流水はなかったものと考えられる。溝2はこれに直交した状態にあり、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。堆積土は暗灰色粘砂質土で、重複関係から溝1より新しいと判断される。

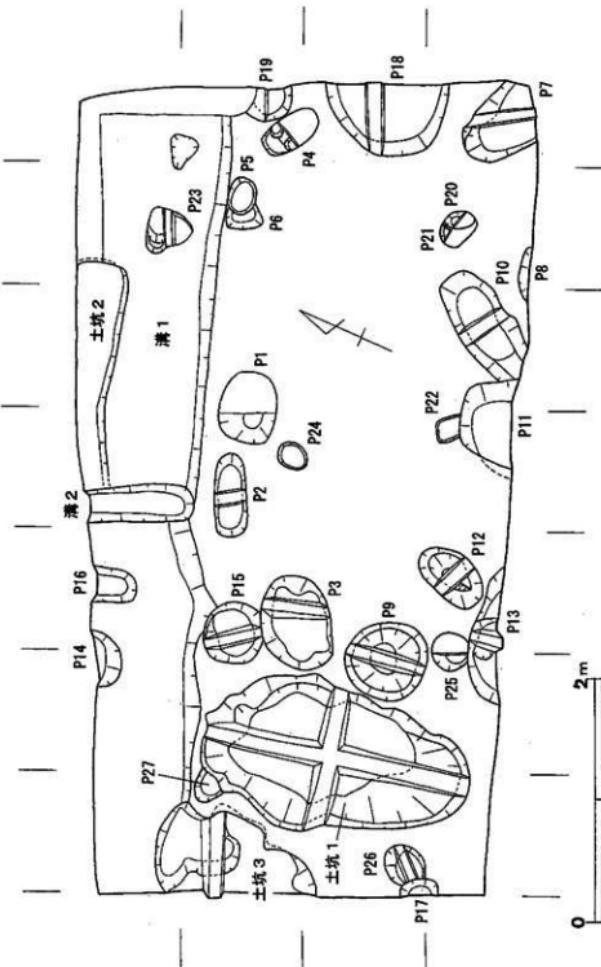
土坑は3基検出された。土坑1は調査区西側で検出された長径約2.2m、短径約1.2m、深さ約35cmを測る平面楕円形を呈し、堆積土は黒灰色粘砂質土である。土坑2は調査区北端で検出され、検出長約1.8m、深さ約0.4mを測るもので、堆積土は暗茶褐色粘質土である。土坑3は調査区西端で検出され、不整な形を呈するもので、深さ約0.2mを測る。

ピットは平面円形や楕円形を呈する小規模の穴で、27基検出された。直径0.2～1m、深さ



第7図 土壌断面図

第8圖 這樣平面圖



0.03~0.25mを測る大小様々なものがある。明確な柱痕の残るものは認められないが、溝1と方位的に一致及び直交するものがあることから掘立柱建物跡の柱穴である可能性がある。

遺構は重複関係がみられるところから年代幅が想定できる。遺構内の堆積土と遺構の重複関係から検討すると、4時期に分類することが可能である。時期の新しい順から記す。

I期 土坑1・3、P1・3・11

II期 溝2、P2・13・14・16、

III期 土坑2、P9・12・15・17、
20・22・25

IV期 溝1、P7・8・10・18・19・21

所属時期不明 P4・5・6・23・24・26・27

遺構の時期は、出土土器がほとんどが細片であり、判然としないが、概して平安時代～中世の所産と考えられる。

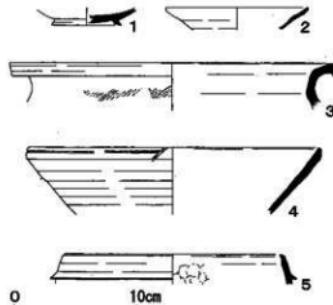
出土遺物については、土師器（皿・椀・甕）、瓦器（椀）、須恵器（杯・甕・こね鉢）、青磁、灰釉陶器（椀）、瓦質土器等の細片が遺構と遺構面上面から出土した。(1)は溝1出土の灰釉陶器の椀かあるいは皿で、底部高台の内側端部は鋭く、灰釉陶器としては古いタイプである。(2)はP15出土の土師器皿で、押圧調整の後、横方向のナデで仕上げている。(3)はP14出土の須恵器甕の口縁部で大き

く外反し、端部は広い平坦面を持つ。平坦面には凹線状の弱いくぼみがある。頸部に右上がりの斜め縦方向のたたき目が残る。(4)は遺構面上面出土の須恵器こね鉢の口縁から体部の部分である。口縁部外面に沈線が巡る。(5)は土坑1出土の瓦質土器羽釜である。

以上、今回の調査で確認された溝・土坑・ピット等の遺構は、これまで周辺で検出された遺構と一連のものと考えられ、平安～中世の集落跡の一部と考えられる。

遺構名	形狀、方向	規模 (cm)	堆積土	時期	出土遺物
P 1	椭円	6.0×4.5	黑灰色砂質土	I	土師器、須恵器
P 2	椭円	7.0×2.5	暗灰色粘砂質土	II	土師器
P 3	椭円	8.0×5.5	黑灰色粘砂質土	I	
P 4	椭円	5.0×3.0	灰白色粘質土	不明	土師器
P 5	円	3.0×2.0	灰白色粘質土	不明	土器
P 6	円	径3.0	灰白色粘質土	不明	土器
P 7	椭円	(7.0)×5.0	深褐色粘質土	IV	土師器
P 8	円?	(径5.0)	深褐色粘質土	IV	土師器
P 9	円	径6.5	暗灰色粘質土	Ⅲ	土師器、須恵器
P 10	椭円	1.00×4.0	深褐色粘質土	IV	土師器、須恵器
P 11	円?	径7.0	黑灰色粘質土	I	瓦器、土師器
P 12	椭円	6.0×3.0	暗灰色粘質土	Ⅲ	土師器
P 13	円?	(径11.0)	暗灰色粘質土	II	須恵器
P 14	円	径5.0	暗灰色粘質土	不明	土師器
P 15	円	径5.0	暗灰色粘質土	Ⅲ	土器
P 16	椭円	(8.0)×3.0	暗灰色粘質土	II	土師器
P 17	円	径3.0	暗灰色粘質土	Ⅲ	
P 18	円	径1.00	深褐色粘質土	IV	
P 19	円	径4.0	深褐色粘質土	IV	
P 20	椭円	3.0×1.5	暗灰色粘質土	Ⅲ	
P 21	椭円	3.0×2.5	深褐色粘質土	Ⅲ	
P 22	椭円	2.0	暗灰色粘質土	Ⅲ	
P 23	不規則	4.0×4.0	暗褐色粘質土	不明	
P 24	円	径2.0	深褐色粘質土	Ⅲ	
P 25	円	径3.0	暗灰色粘質土	Ⅲ	
P 26	円	径2.0	暗灰色粘質土	不明	
P 27	椭円	2.0	暗色粘質土	不明	
土坑1	椭円	2.20×1.20	黑灰色粘切削土	I	土師器、須恵器、瓦器、白磁
土坑2	長方形	1.90×0.45	暗褐色粘質土	Ⅲ	土師器
土坑3	椭円	3.00×(7.0)	黑灰色粘質土	I	
底1	東西方向	幅(1.20)	深褐色粘質土	IV	土師器、須恵器
底2	南北方向	幅(3.0)	暗灰色粘質土	II	土師器、須恵器

第1表 検出遺構一覧表



第9図 出土遺物実測図

2. 吹田市南高浜町77-2・3における発掘調査（第2期）

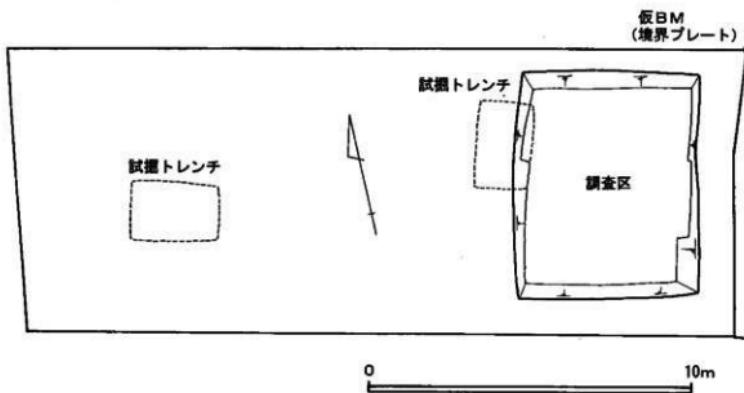
（1）調査の経過

今回の発掘調査は、住宅の建築工事に伴い、平成14年8月29日に試掘調査（8m²）を行ったところ、中世の遺物包含層が確認され、予定の建築工事が実施された場合、一部で遺跡の破壊が生じると判断されたため、事前に破壊の恐れのある部分について調査を実施したものである。

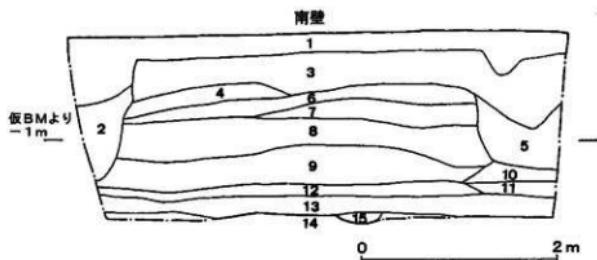
拡大調査については、平成14年9月11日～13日にかけて、約30m²の調査区を設定し、重機及び人力掘削により実施した。

（2）調査の成果

調査区を掘削したところ、現代盛土層（1層）以下、近現代のものと考えられる土層（2～11層）が厚く堆積し、その下位において灰褐色砂層（12層）、黒色砂層（13層）、黄色砂層（14層）の堆積が認められた。このうち、黒色砂層において中世を中心とする土師器や須恵器、瓦器などの包含が認められ、この黒色砂層下の黄色砂層をベース層として、ピット1基、溝2条を検出した。これらの溝については、それぞれ東西方向・南北方向にのびていたようであるが、調査区の3/4程度が攪乱を受けていたため、その性格については明確でない。

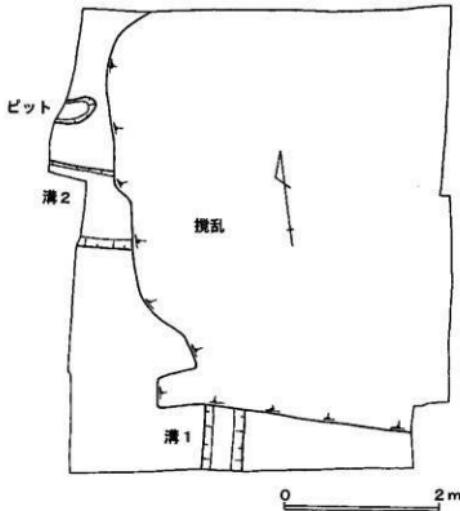


第10図 調査区平面図（第2期）



- | 土層序 | | 8. 灰褐色土層 |
|---------------------|--|-------------------|
| 1. 現代盛土層 | | 9. 灰褐色砂質土層 |
| 2. 茶灰色土（黄色粘土多く混じる）層 | | 10. 暗灰色砂質土層 |
| 3. 茶灰色土層 | | 11. 暗灰色砂層 |
| 4. 茶灰色土（黄色粘土混じる）層 | | 12. 灰褐色砂層 |
| 5. 灰色粘質土層 | | 13. 黑色砂層（中世遺物包含層） |
| 6. 單黄色砂層 | | 14. 黄色砂層（地山層） |
| 7. 黄色砂層 | | 15. 黒色砂層（溝1埋土） |

第11図 土層断面図（第2期）



第12図 遺構平面図（第2期）

第4章 七尾瓦窯跡の発掘調査

1. 吹田市岸部北5-11-35における発掘調査（第1期）

（1）調査の経過

調査地点は、奈良時代の瓦窯跡である七尾瓦窯跡に当たり、遺構・遺物等を検出する可能性があることから、事前に確認調査を実施したものである。

調査については、平成14年5月13・14日に現状畠地部分を対象に調査区10か所（調査面積合計27.5m²）を設定し、人力により調査を実施した。

（2）調査の成果

調査区の土層序は、基本的にⅠ層 表土（現代）、Ⅱ層 黄色粘質土（軟質）、Ⅲ層 黄褐色粘質土（硬質、地山）である。T4・5・

7・9のみⅡ層の黄色粘質土が認められ、その下で地山であるⅢ層が認められた。その他のトレンチは表土直下でⅢ層が認められた。これらの層からは、明確な遺構・遺物は検出されなかった。表土直下か浅い所で地山が検出されたことから、当地（畠地部分）のうち、史跡七尾瓦窯跡5・6号窯の延長部分以外についてはすでに埋蔵文化財は削平され、遺存していないと考えられる。

2. 吹田市岸部北5-11-35における発掘調査（第2期）

（1）調査の経過

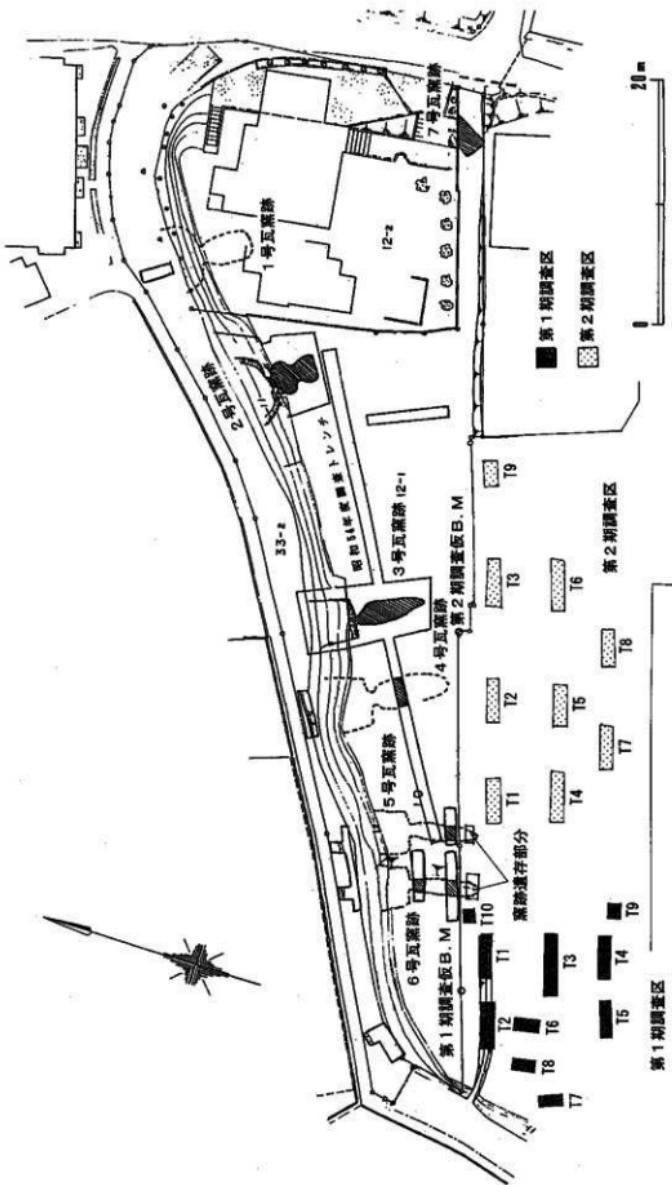
調査地点は第1期調査区の東隣に当り、平成14年11月11日に調査を実施した。調査面積はT1～T9の9か所で合計約34m²である。

（2）調査の成果

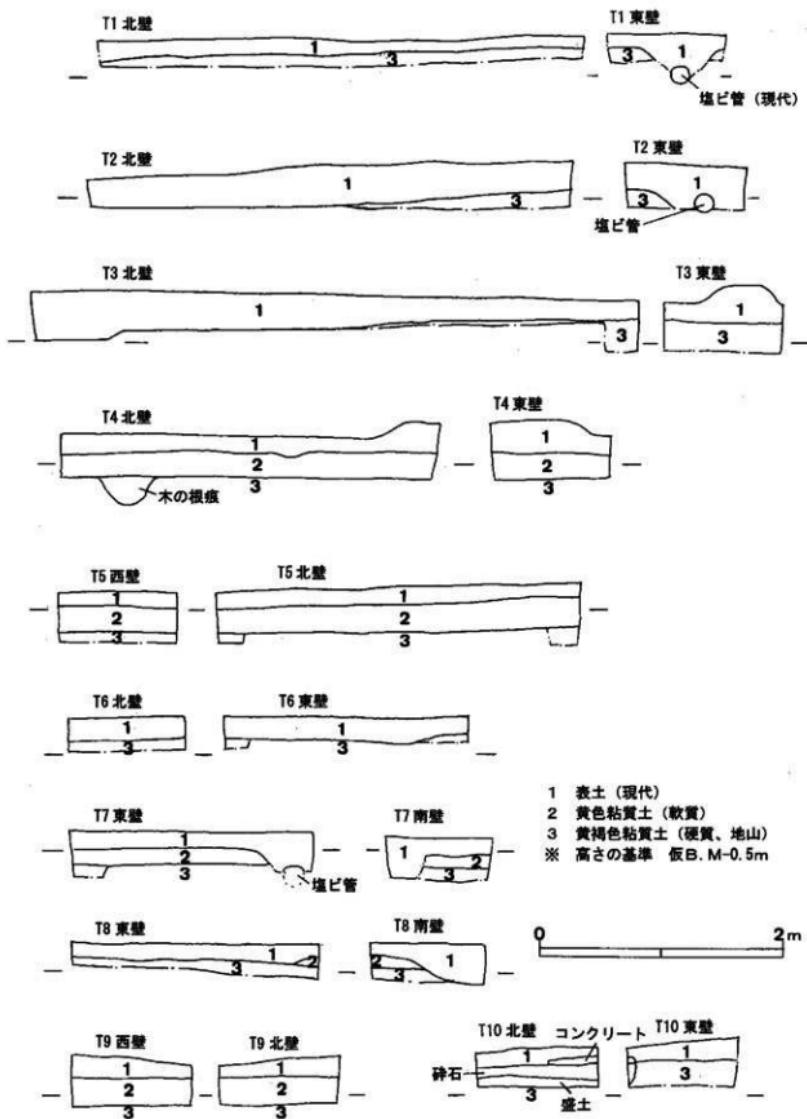
調査区の土層序は、基本的にⅠ層 表土（現代）、Ⅱ層 黄褐色粘質土（硬質、地山）である。T1～T9の調査坑では表土直下でⅡ層が認められた。これらの層からは、明確な遺構・遺物は検出されなかった。表土直下の浅い所で地山が検出されたことから、今回の調査区では、史跡七尾瓦窯跡5・6号窯の延長部分以外についてはすでに埋蔵文化財は削平された可能性がある。



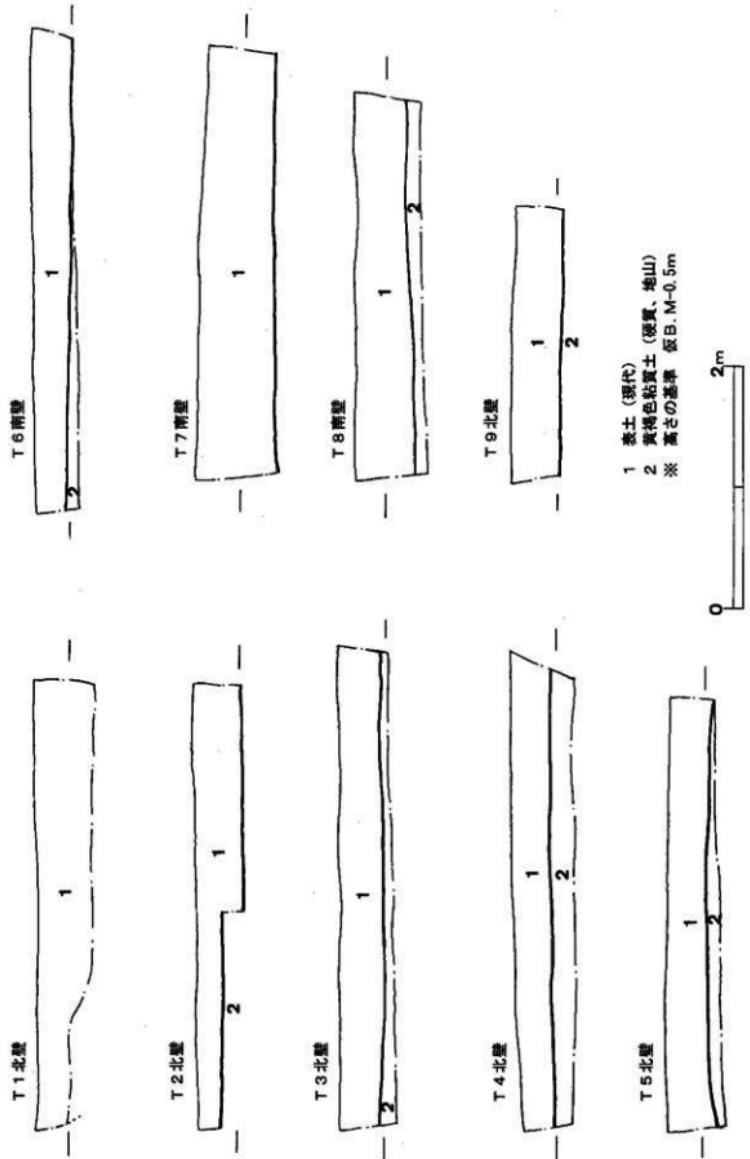
第13図 七尾瓦窯跡調査地周辺図 (1:5,000)



第14図 調査区平面図



第15図 第1期調査区土層断面図



第16図 第2期調査区土層断面図

第5章 垂水遺跡の発掘調査

(1) 調査の経過

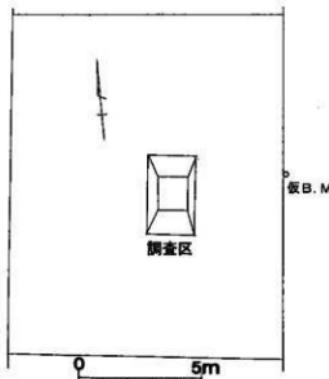
調査地点は垂水遺跡に当たり、遺構・遺物等を検出する可能性があることから、事前に確認調査を実施したものである。今回の調査は平成14年7月18日に実施した。調査面積は1か所で約6.6m²である。

(2) 調査の成果

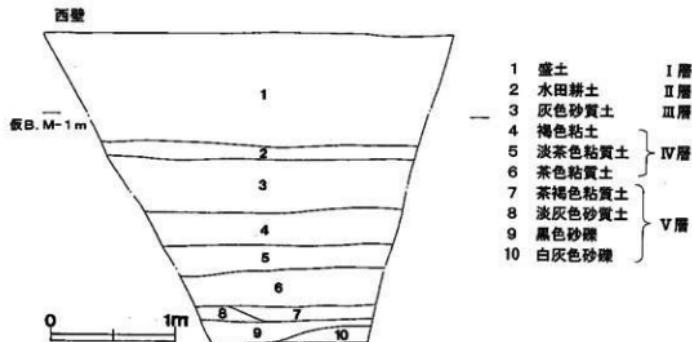
調査区の土層序は、基本的にI層 盛土（現代）、II層 水田耕土（現代）である。III層 灰色砂質土、IV層 褐色粘土、淡茶色粘質土、茶色粘質土、V層 茶褐色粘質土、淡灰色砂質土、黒色砂礫、白灰色砂礫である。これらの層からは、明確な遺構・遺物は検出されなかった。



第17図 垂水遺跡調査地周辺図(1:5,000)



第18図 調査区平面図



第19図 土層断面図

第6章 都呂須遺跡の発掘調査

(1) 調査の経過

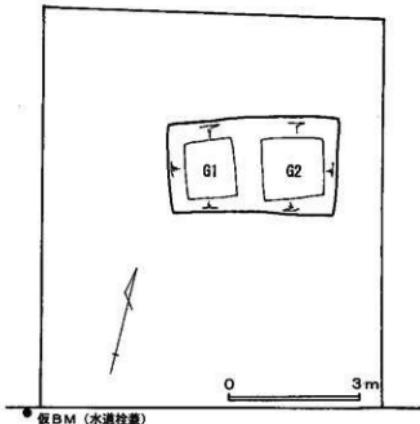
今回の発掘調査は、住宅の建築工事に伴い実施したもので、平成14年9月3日に、遺構・遺物包含の有無の確認を目的に、調査グリットを2か所（3m²）設定して行った。

(2) 調査の成果

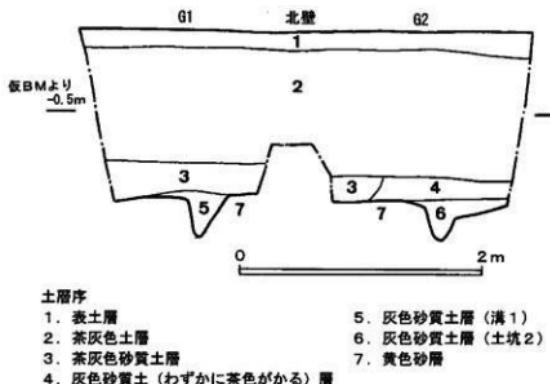
調査グリットを掘削したところ、表土層以下、茶灰色土層（2層）、茶灰色砂質土層（3層）、灰色砂質土（茶色がかる）層（4層）、黄色砂層（7層）の堆積が基本的に認められた。そして、茶灰色砂質土層と灰色砂質土（茶色がかる）層において中世の土師器・瓦器の包含が認められ、黄色砂層をベース層として、ピット1基、土坑2基、溝1条を検出した。このことから、調査地においては、中世の遺構・遺物が包含されていることが確認できた。



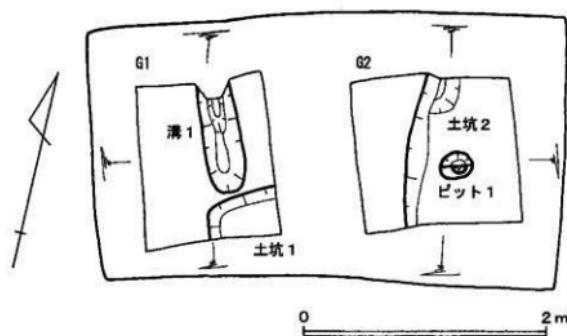
第20図 都呂須遺跡発掘調査地周辺図 (1 : 5,000)



第21図 調査区平面図



第22図 土層断面図



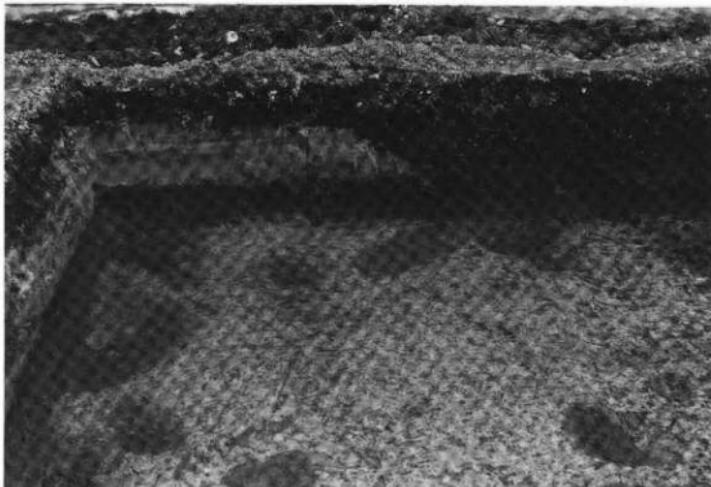
第23図 遺構平面図



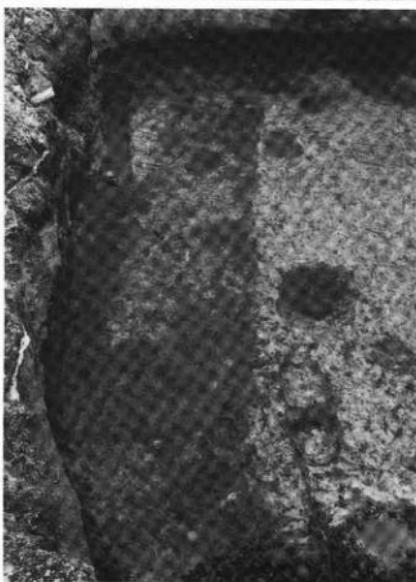
調査区近景（南から）



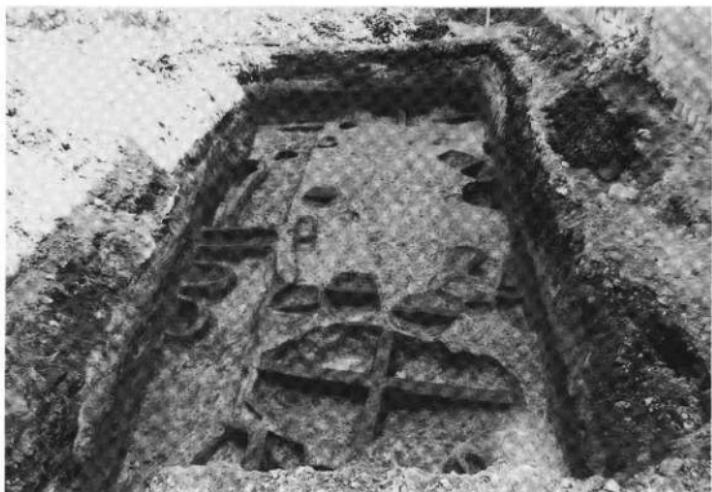
調査区近景（東から）



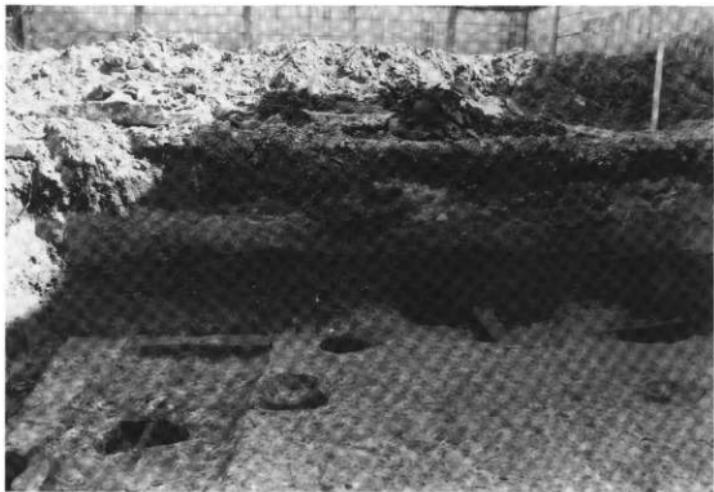
遺構上面検出状況（西から）



遺構上面検出状況（北から）



調査区全景（西から）



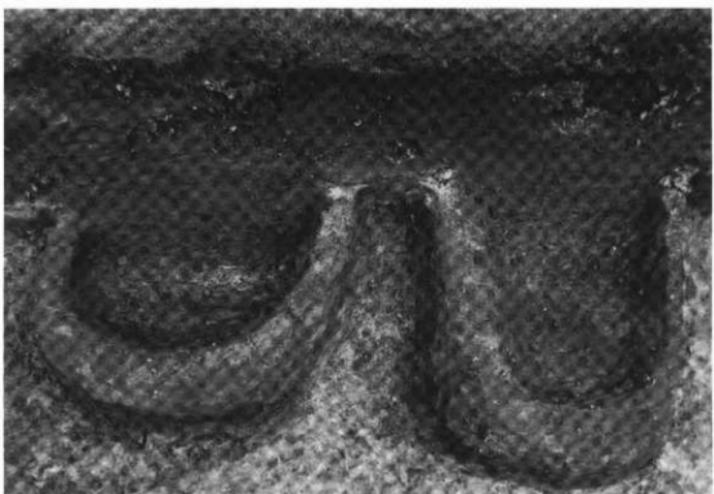
調査区東壁（西から）



P 12・13・25 (北から)



調査区西端検出遺構 (南から)



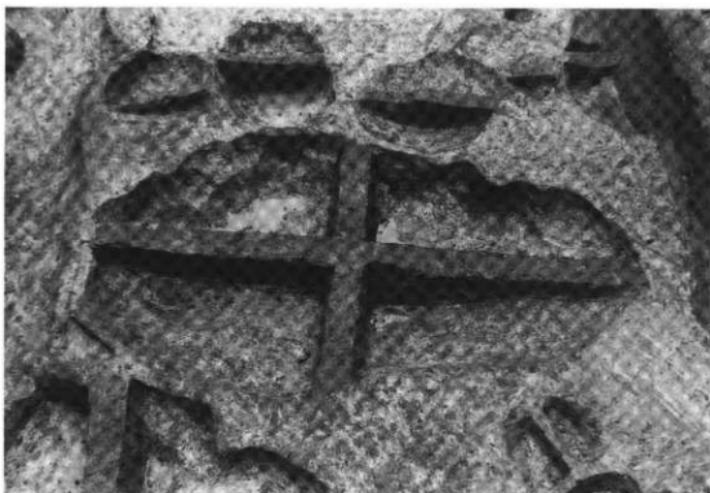
P 14・16 (南から)



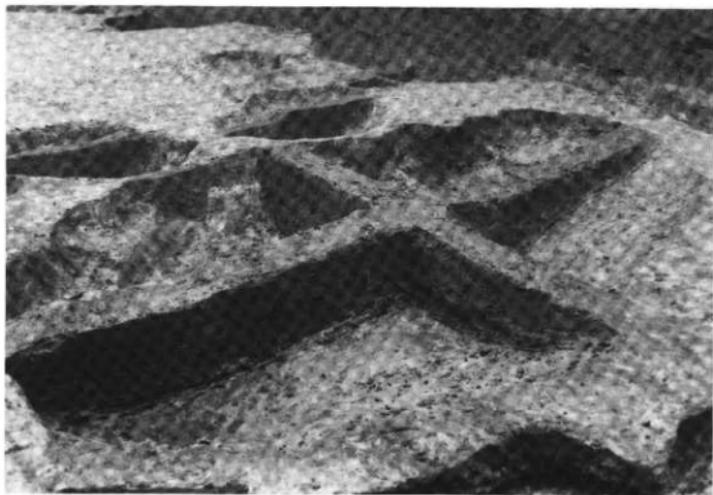
土坑 3 (北から)

図版
6

高城B遺跡（第1期）5



土坑1（西から）



土坑1細部（北西から）



調査前近景（南から）

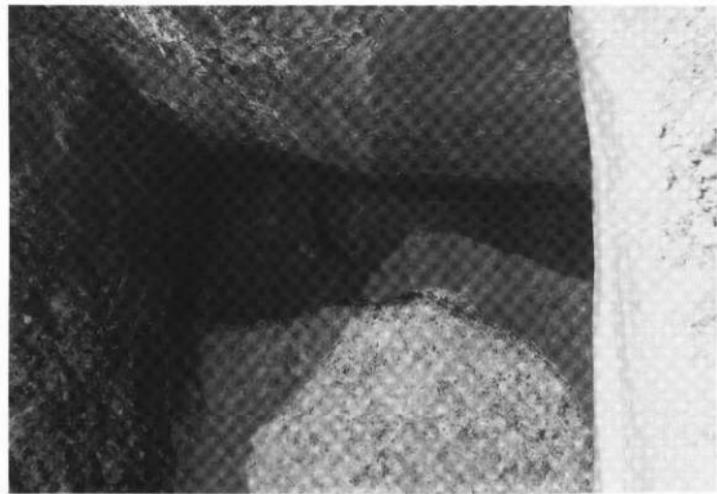


溝 1 検出状況（南から）

图版 8 高城B遺跡(第2期) 2



漆2 梢出状況



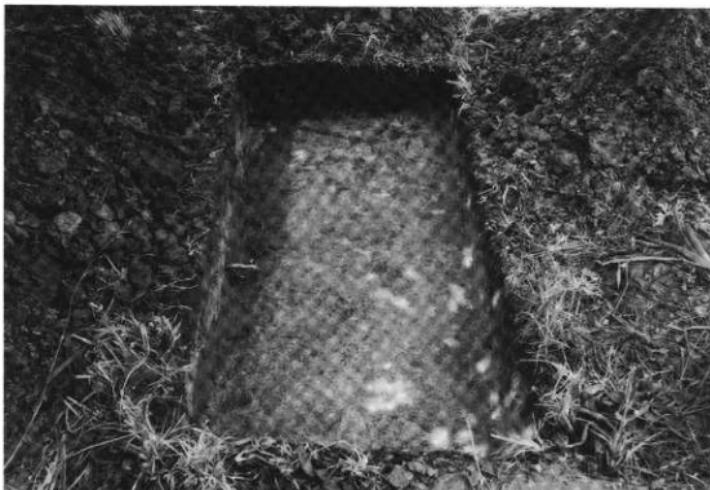
漆2 トト出状況



調査前近景（南東から）



T4（東から）



T 8 (南から)



T 10 (南から)



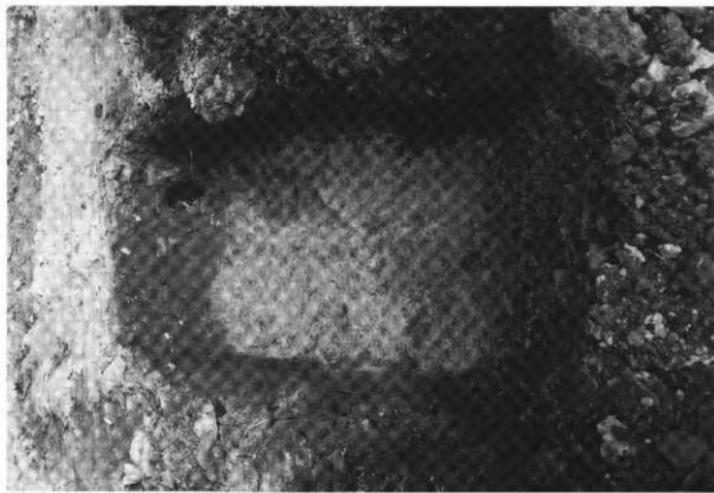
調査前近景（東から）



T 2 (東から)



T 6 (東から)



T 6 (西から)



調査前近景（南東から）



調査区近景（南から）



調査前近景（南東から）



G2 検出遺構（南から）

〔平成14年度〕

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

浜の堂遺跡

高城B遺跡

七尾瓦窯跡

垂水遺跡

都呂須遺跡

平成15年3月31日

編集 吹田市泉町1丁目3番40号
発行 吹田市教育委員会